

# 緑を感じる都心の街並み形成計画

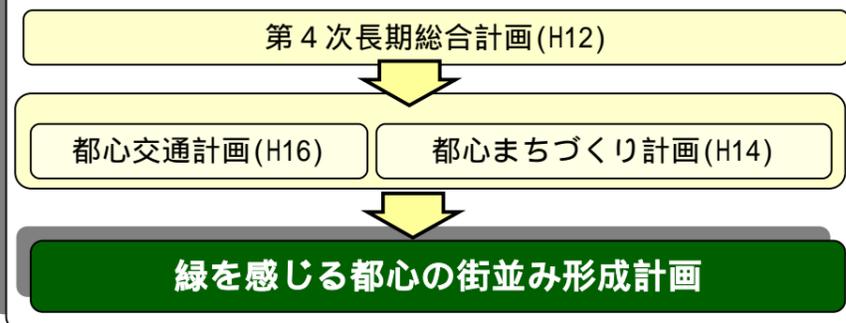
## 概要版

札幌市

平成17年（2005年）9月

# 1 計画の目的、基本目標、ストリート文化創造の基本的な考え方など

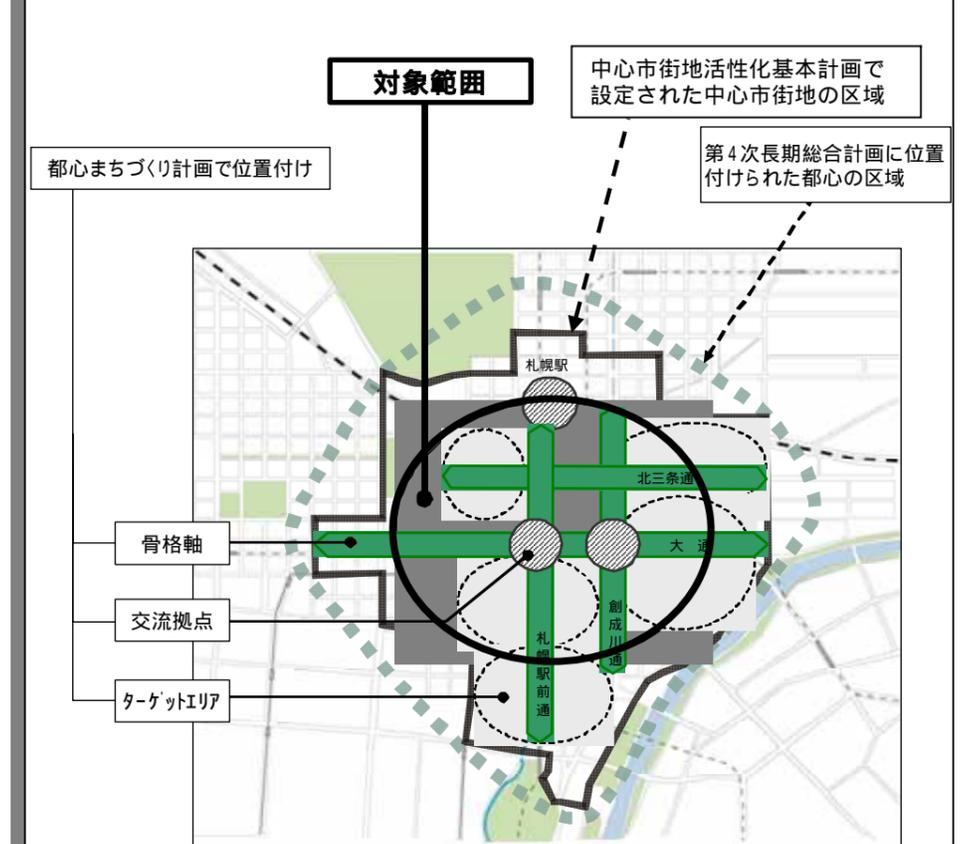
## 1-1 計画の位置付け



## 1-2 計画の目的

新しい時代の都市文化(ストリート文化)の創造などを目指し、都心の**オープンスペースネットワーク**の考え方やそれらの活用・管理のあり方、周辺の建築物の機能、形態のあり方などを総合的に捉え、都心の魅力を受け止めながら気持ちよく過ごせる環境を整えるための重点的な取り組みをまとめることを目的とする。  
とりわけ、都心の魅力向上に大きく寄与することが期待される、**札幌駅前通及び創成川通の再整備に関する基本的計画**の策定を行います。

## 1-3 計画の対象範囲



## 2 計画の基本目標～緑を感じる個性豊かなストリート文化の創造～

ストリート文化の創造による、都心の魅力づくりのための5つの基本的な目標

- 1 アクティビティとオープンスペースによる個性豊かなストリート文化づくり
- 2 各ストリートの個性の創出による新しい名所の創造
- 3 各ストリートにおけるガイドラインの策定と継続的な進行管理
- 4 市民による活用を通じたストリート文化の育成
- 5 北海道・札幌の風土に立脚した都市デザインの実現

**アクティビティ**  
(多様で個性的な人の営みを誘発)

**オープンスペース**  
(緑豊かで魅力的な空間を創出)

## 3 ストリート文化創造の基本的な考え方

### (1) ストリート文化づくりの要素

- ・公共空間の整備
- ・公共空間の活用
- ・沿道まちづくりの誘導
- ・実現化のための体制づくり

### (2) 都心において誘導すべきアクティビティ

- ・まち歩き自体を楽しむ
- ・豊かに時間を使う
- ・人を見る～人に見られる
- ・スポーツ、娯楽を楽しむ 他

### (3) アクティビティ誘導のための多様な空間づくり

- ・個性がある空間
- ・発見、感動がある空間
- ・双視性がある空間
- ・あそび心がある空間 他

### (4) 緑豊かなオープンスペースづくり

- ・鮮明な都市イメージを印象づける環境づくり
- ・緑豊かな空間づくり
- ・地区相互の連携強化 他

## 4 ストリート文化を展開するネットワーク

### 4つの骨格軸におけるストリート文化の誘導方向

**札幌駅前通～地上と地下それぞれの魅力があいまって賑わいを創出するメインストリート～**

地下歩行空間の整備、地上部の再整備により、地上と地下の歩行者空間それぞれに機能的、空間的な特徴を与え、季節、時間、目的により歩く場所を選択できる重層的な歩行空間を構成する。

**創成川通～新しい活動、文化、交流、緑を育む川辺ストリート～**

水辺を最大限に活かすとともに、これと調和する多様な緑の姿を創出し、都心には少ない自然を活かした空間とすることにより、今までの都心にはない新しいアクティビティを生む個性豊かな空間としていく。

**大通～魅力的な緑環境を持ち、市民が憩い、活動するストリート～**

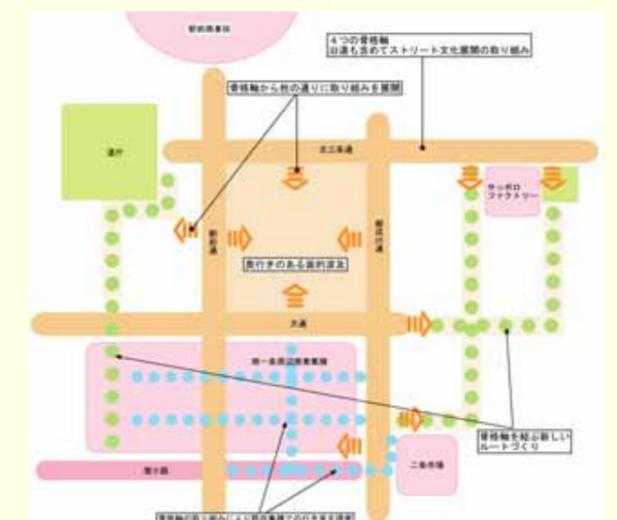
駅前通と並ぶ景観軸として、豊富で連続的な緑を確保するとともに、沿道との関係に着目しながら誘導するアクティビティに対応したランドスケープを形成する。

**北三条通～札幌の歴史と文化を感じながら新たな活動を育むストリート～**

通りとしてのイメージを高めるため、道庁前のイチョウ並木や点在する歴史的な資源を活かしながら景観的な連続性を表現する。

**周辺への波及的展開**  
(4つの骨格軸の取り組みを他の道路や中通りに展開)

### ストリート文化展開のイメージ



## 2 札幌駅前通の再整備の基本計画

### 1 整備の基本方針～地上、地下が融合する緑豊かな空間づくり～

#### (1) 空間整備の方針

- ・ 3列並木の維持、再生による緑の中心軸の強化
- ・ 快適に利用できる歩行者空間の創出
- ・ 地上と地下の空間的連続性の確保
- ・ 安全・安心に利用できる場づくり

#### (2) 空間活用の方針

- ・ 道路空間も活用した多様なアクティビティ展開の仕掛けづくり
- ・ 地下歩行空間の積極的な活用

#### (3) 沿道まちづくりの誘導方向

- ・ 高質なストリート商業の展開
- ・ 通りのアクティビティを高めるオープンスペースの確保
- ・ 明確な景観軸を演出する沿道建物の形態誘導
- ・ 波及的展開

### 3 空間デザイン～地上と地下を様々な要素で連続化する～

#### (1) デザインの狙い

- ・ 機能の連続  
経路の回遊性・選択性、地下の賑わいを地上から眺める、沿道とのスムーズな接続
- ・ 環境の連続  
空と緑を見上げる、光が差し込む、天候の変化を感じる地下空間

#### (2) スルーホールによる駅前通シンボルづくり

- ・ 地上と地下の様々な要素（出入口、サンクンガーデン等）をスルーホールとして位置付け

#### (3) 地上部のデザイン

- ・ シンボリックな空間を演出する緑の創出、多様なアクティビティを受け止める空間づくり

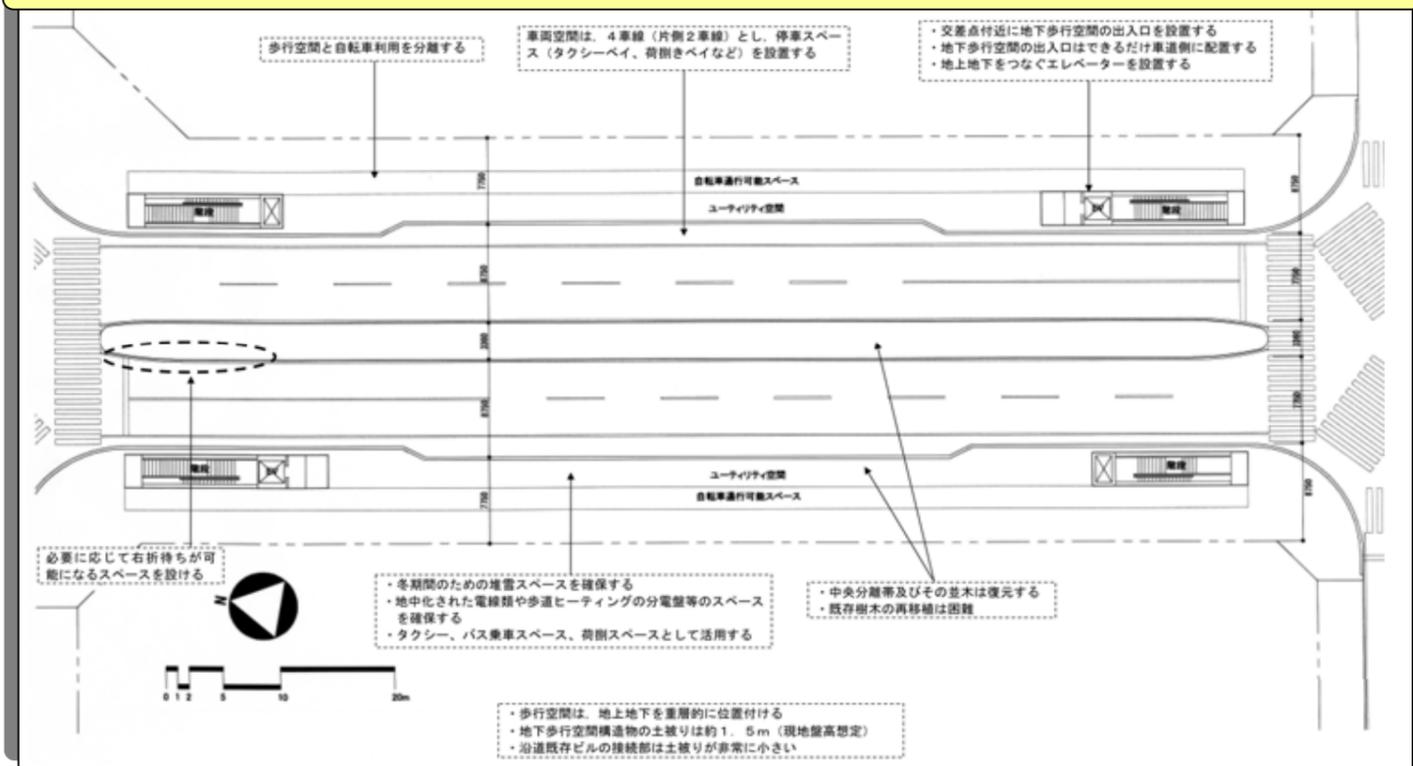
#### (4) 地下空間のデザイン

- ・ 様々な人々のアクティビティによる地下空間の賑わいをより高める空間づくり



地上部の整備イメージ

### 2 施設の基本構成（既定条件）



### 4 整備イメージ





## 4 札幌駅前通及び創成川通における主要な樹種の選定

### 1 札幌駅前通における主要な樹種

#### (1) 中央分離帯～オオバボダイジュ～

選定理由

- ・中央分離帯にふさわしい、ゆったりと大きな樹冠を形成する
- ・ハルニレに比べ樹木そのものの強度が高く、強風による枝折れも少ない
- ・郷土樹種である
- ・根系が浅根性でありあまり広がらず、限られた植栽基盤に適応しやすい
- ・ハルニレは、大通以南での生育状況から判断すると、整備後に1.5mという植栽基盤の厚さでは、十分な生育が望めないと考えられる
- ・ハルニレは、本来、適潤性であることから、創成川沿いの緑地空間を都心における新たな生育の場として確保する

#### (2) 歩道部～ニセアカシア～

選定理由

- ・今から120年近くもの昔に植えられた歴史性
- ・外来種とはいえ、様々な詩にも詠われ、札幌の街のイメージを醸し出す素材である課題
- ・「平成16年度の台風18号による被害報告書（石狩支庁、平成17年3月）」において、倒木被害の多い樹種にあげられており、事業実施に向けては詳細な技術検討が必要

#### (3) 大通以南における植樹の考え方

- ・中央分離帯のハルニレは、土厚の状況は違うものの、地下街の躯体及び道路路盤に囲まれた空間であることから十分な生育がされていない状況にある。このため、将来、枯損等が生じた場合にはより適応しやすいオオバボダイジュに植え替える。（今回の再整備区間外となる北4条線～北5条・手稲通区間についても同様の扱いとする）
- ・歩道のトチノキは、植樹して間もないこと、既存樹木の生育状況が良好なこと、街並みの違いがあること等を踏まえ、現状のままとする。

完成当初のイメージ



10年後のイメージ



このイメージは、現況写真に計画樹種を挿入したものであり、歩道及び車道の幅員等は既存のままとなっています。

### 2 創成川通における主要な樹種

#### (1) 河道沿い～ハルニレ～

選定理由

- ・北海道を代表する落葉広葉樹で適潤性の樹種である
- ・駅前通のハルニレの代替として、数十年から百年をかけて、大きな緑の固まりを作り出すことが可能

#### (2) 車道際～ハシドイ、ライラックなどを中心とした高、中、低木～

選定理由

- ・土被りが薄く、高木の植栽が難しい場所には、札幌のシンボルツリーであるライラックの並木を育成する
- ・既に川下公園に導入されている多彩な品種群に合わせ、既存の早咲きのシロライラックを植え戻すことにより、大通と合わせた見どころ空間を作り出し、回遊効果を高めることが期待できる
- ・緑地利用者にとって、通行車両を遮蔽することにより、車からの負荷が軽減されることが研究からも明らかになっており、連続性のある低木植栽を行うことが効果的である

#### (3) 歩道部～カツラ～

選定理由

- ・イタヤカエデ、シダレヤナギからカツラに樹種転換が進められている、北1条以北の国道部と協調する

完成当初のイメージ



10年後のイメージ

